

<第61回調査>

2014年06月30日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2014年06月17日(火)13:00~2014年06月24日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は822件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

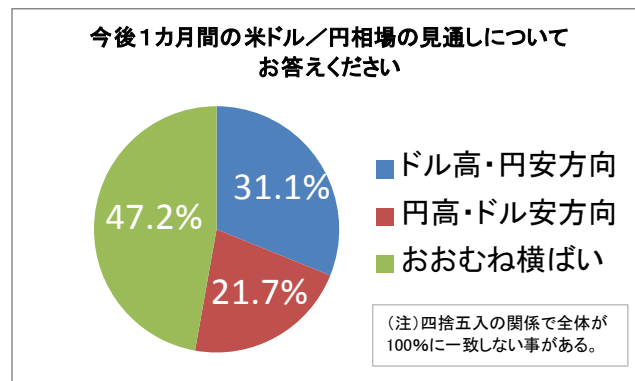
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第61回調査結果略報：米ドル/円の横ばい予想が一段と増加】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

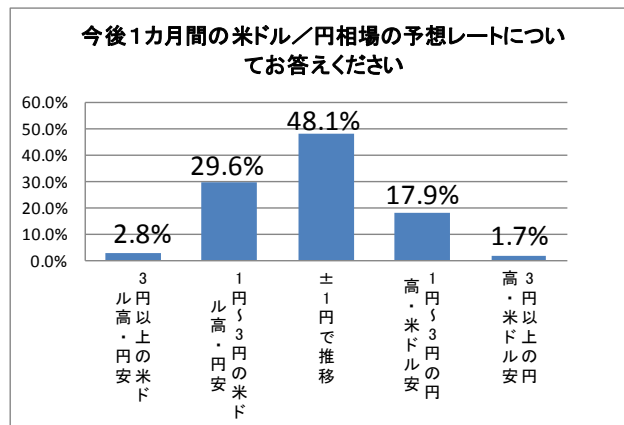
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が31.1%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は21.7%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+9.4%ポイントとなり、12カ月連続でプラスを維持したものの、プラス幅は6カ月連続で縮小した。内訳をみると、最も回答割合を集めたのは先月に続き「おおむね横ばい」で、前月の42.6%から47.2%へ伸びた。調査期間中の米ドル/円相場は101.70円台から102.30円台という非常に狭いレンジ内での推移となった。日米の金融政策が当面は変更されないだろうとの見方が強い中、主要国株価がそれなりに動く中でもドル/円相場の値動きがかなり限られており、FX投資家としても「こうなったら値が動く」というシナリオを持たずにいると推察する

※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「±1円で推移」と答えた割合が48.1%と最も多く、「1円～3円の米ドル高・円安」が29.6%と続いた。「1円～3円の円高・ドル安」は17.9%、「3円以上の米ドル高・円安」は2.8%、「3円以上の円高・米ドル安」は1.7%となった。ヒストグラムは中央を頂点として米ドル高・円安サイドがやや厚い形状をしている。なお「1円～3円の米ドル高・円安」と「±1円で推移」の合計で8割近くの回答を集めた点と、調査期間中の米ドル/円相場の平均(終値ベース)から推測されるFX投資家の今後1カ月の予想レンジは、およそ101.00円～105.00円となる。年初来高値にも安値にも届かない状態が続くと見るFX投資家が多いようだ。



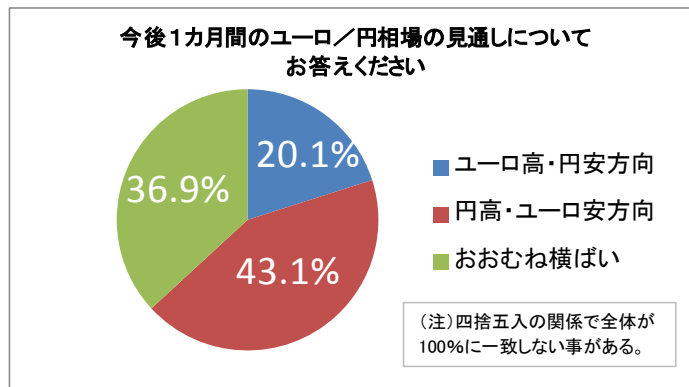
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が20.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が43.1%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲23.0%ポイントとなり、3か月連続のマイナスとなった。調査期間中のユーロ/円相場は138.10円台からジリ高傾向となるも、139.00円目前で頭を押さえられるなど、値幅は狭めながらも強含んだ。それでもなお「円高・ユーロ安方向」で見るFX投資家が多いのは、欧州中銀(ECB)が依然として追加緩和の可能性を残している点を考慮していると考えられる。

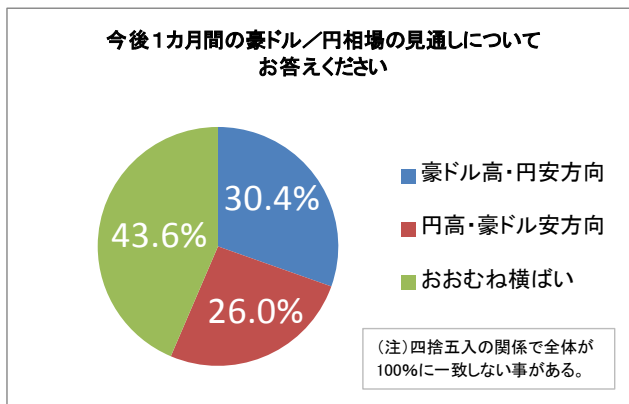
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が30.4%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は26.0%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+4.4%ポイントと前回(+10.2%ポイント)からプラス幅を縮めた。「豪ドル高・円安方向」が前回(34.2%)から減少した一方、「円高・豪ドル安方向(前回: 24.0%)」や「おおむね横ばい(前回: 41.8%)」が少しずつ回答割合を伸ばした格好だ。調査期間中の豪ドル/円相場は95.10円台から上昇するも、96.20円台で頭を押さえられて再び軟化するなど、大きな方向感が出ない状態だった。今年4月中旬以降、豪ドル/円は96.20円台で頭を押さえられる状態が続いており、高値警戒感が広がりつつある点が、結果に反映されたものと見る。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

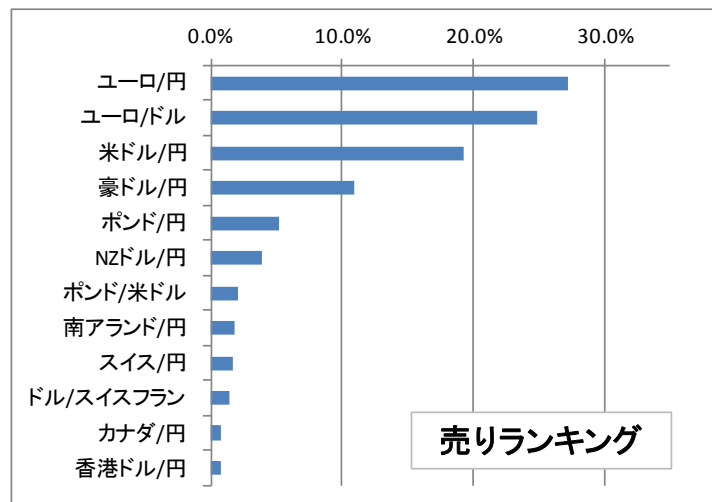
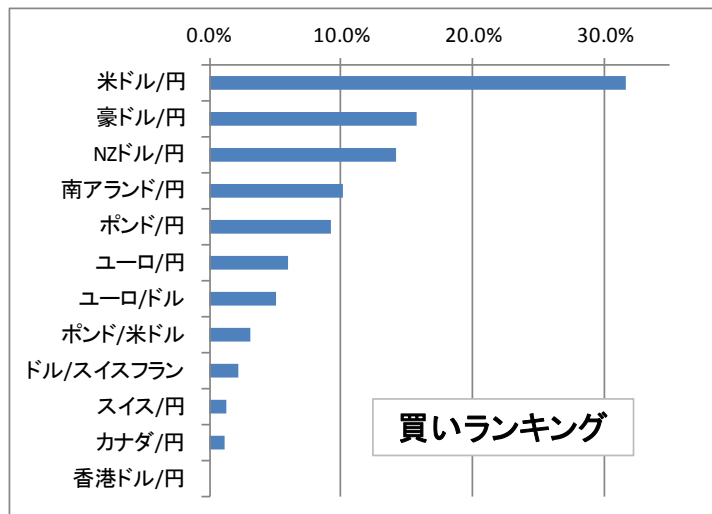


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(31.6%)、2位豪ドル/円(15.8%)、3位NZドル/円(14.2%)、4位南アランド/円(10.1%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位はユーロ/円(27.3%)、2位がユーロ/ドル(24.9%)、3位米ドル/円(19.2%)、4位豪ドル/円(10.9%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が連続1位の記録を20カ月に伸ばした。前月5位だった南アランド/円と、先月4位だったポンド/円が入れ替わった程度で、大きな変化は見られていない。ボラティリティが低い相場が続いていたことで、積極的に何かを買う、というムードは広がらなかったと考えられる。一方の「売り」で注目の通貨ペアについては、ランキング上位4通貨ペアは不変で、トップ2を引き続きユーロが占めた。メジャー通貨な上、欧州中銀(ECB)が6月に追加緩和を行っていること、将来の追加緩和の可能性を残している面などが、FX投資家にユーロを「売りやすく」見せている可能性がある。

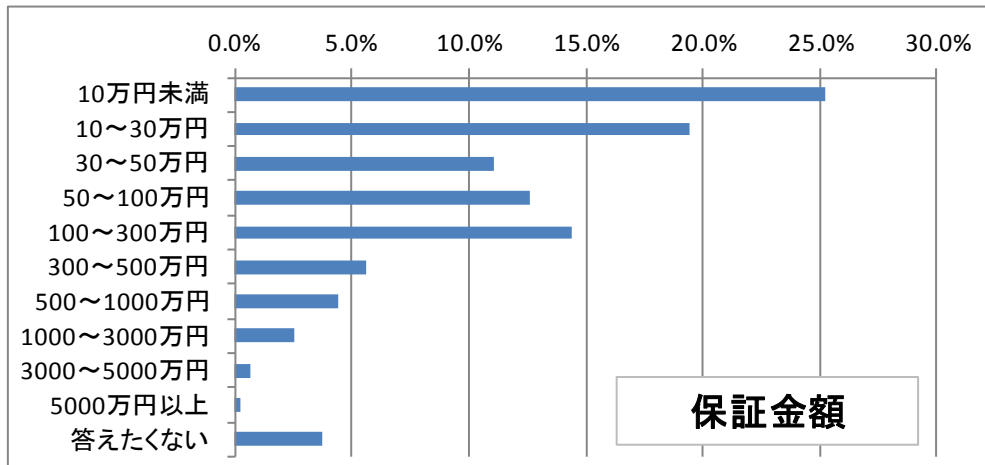


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

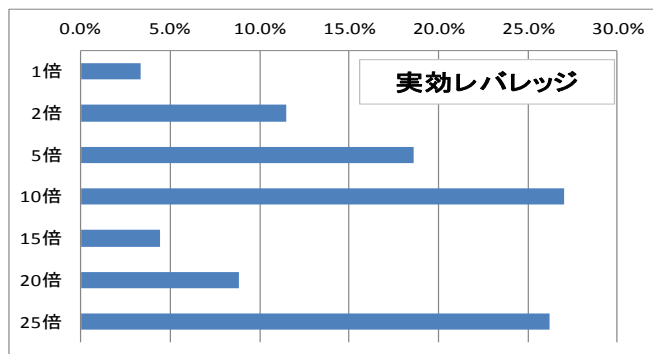
問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が25.5%と最も多く、以下「10～30万円(18.0%)」、「100～300万円(16.3%)」、「50～100万円(12.9%)」、「30～50万円(10.0%)」と続いた。ランキングも回答割合も前月とほとんど変わっておらず、ボラティティが低い中でFX投資家があまり保証金額を変化させなかった様子が見受けられる。ただ、「300万円以上」の合算割合が、先月に続いて僅かながらも増加(13.7%から13.9%)しており、保証金の増加傾向が出てきている様子が窺える。低ボラティリティの中、次のトレンド発生前に保証金額を増やしておこうとする動きが出ている可能性もありそうだ。



問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「10倍」と答えた割合が27.0%と最も多く、「25倍」が26.2%、「5倍」が18.6%と続き、以下、「2倍」が11.5%、「20倍」が8.8%となった。今回も「10倍」と「25倍」が双璧をなしており、この2つだけで回答割合の5割を超えた。また、3番手の「5倍」を含めると回答割合は7割超に上る。FX取引の魅力のひとつであるレバレッジを最大限に活用する層と、レバレッジを抑えて取引を行う層に大別できるようだ。ただ、わずかに25倍(前回:25.1%)や20倍(同:8.5%)が前回より回答割合が増加しており、一方で15倍以下の回答割合が減少していることから、低ボラティリティの中で少しでもレバレッジを上げて利益を取りにいこうとするFX投資家が増えていることも考えられる。なお、今回の調査に回答を寄せたFX投資家の実効レバレッジの平均は12.9倍であった。

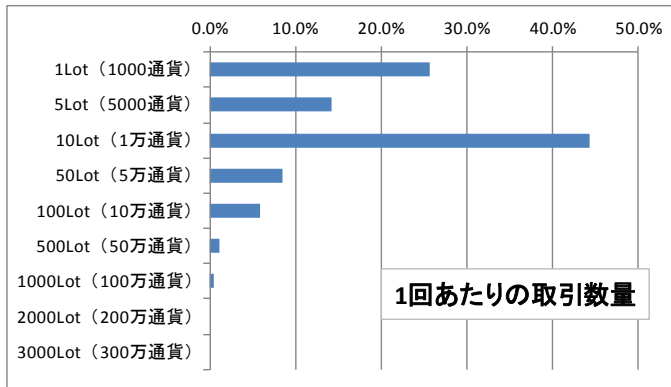


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

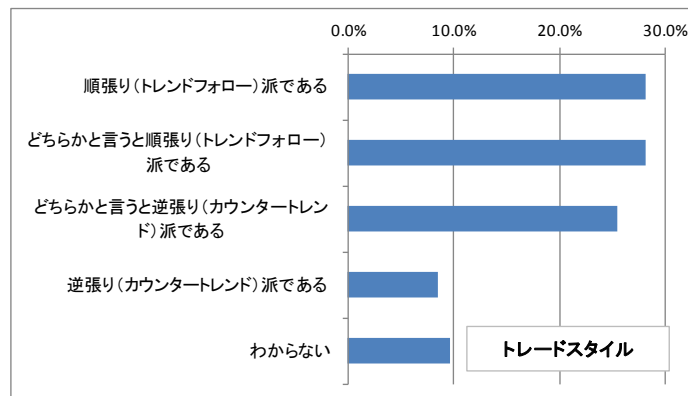
問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が38.3%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が28.2%、「5Lot(5000通貨)」が14.1%、「100Lot(10万通貨)」が8.9%、「50Lot(5万通貨)」が8.3%と続いた。今回、トップをひた走っている10Lotの回答割合が減少(前回:44.2%)した一方、1Lotと100Lotが回答割合を増やす(前回:1Lot=25.6%、100Lot=5.8%)という動きがみられた。通常、この質問は回答に変化が見られにくいのだが、足元のようにボラティリティが低下し値幅が取りにくい中で、レバレッジを上げて対応しようとしている層と、急な動き出しなどを警戒してレバレッジを低く抑える層が一部に出ているようだ。



問9: あなたのFX投資のスタイルは、いわゆる「順張り」「逆張り」のどちらでしょうか(ひとつだけ)

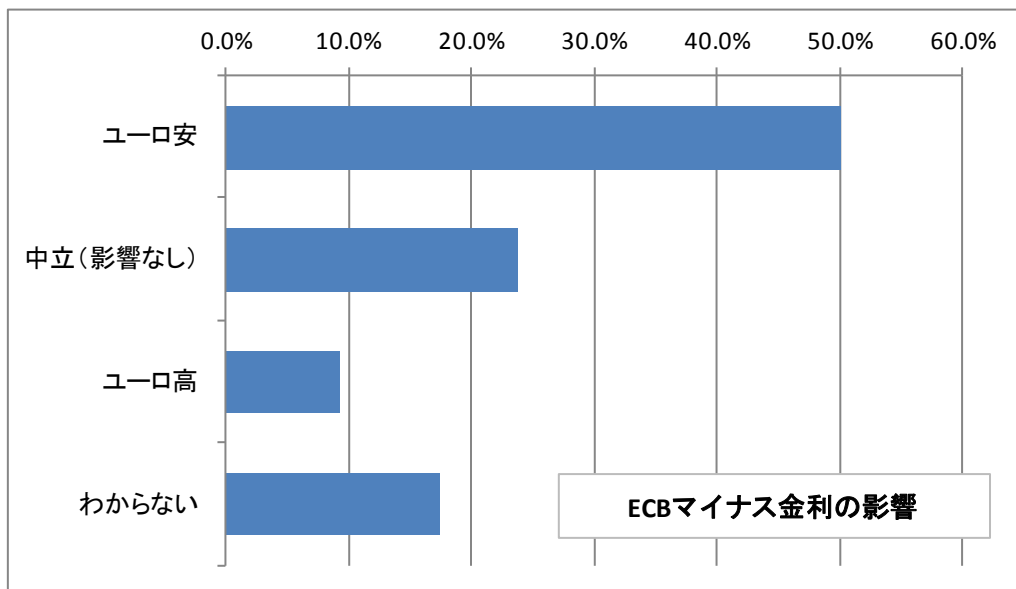
今月の特別質問項目として「あなたのFX投資のスタイルは、いわゆる「順張り」「逆張り」のどちらでしょうか」と尋ねたところ、「順張り(トレンドフォロー)派である」と「どちらかと言うと順張り派である」がそれぞれ28.2%の回答割合で並んだ。また、「どちらかと言うと順張り(カウンタートレンド)派である」が25.4%、「逆張り派である」が8.5%と続いた。順張り派だけで5割を超える結果となったわけだが、これは一般的に言われる「FX投資家は逆張り派が多い」という説と反する結果になった。ここであえて、「どちらかと言うと・・・」と答えた層に注目したい。順張り・逆張り問わず、「どちらかと言うと・・・」と答えた層は多い。FXという、短い期間で取引されがち取引スタイルの場合、必ずしも順張り・逆張りにこだわらずに取引している層が多く、このような回答になったのではないかと推察する。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

問10: 欧州中央銀行(ECB)がマイナスの預金金利を含む利下げを行いました、中長期的なユーロ相場への影響をどのように考えますか？

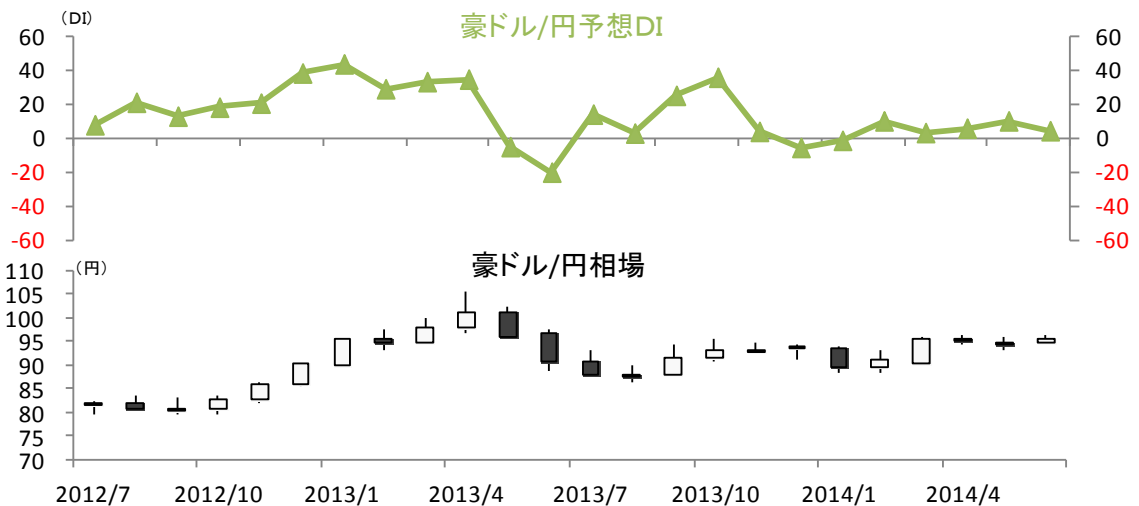
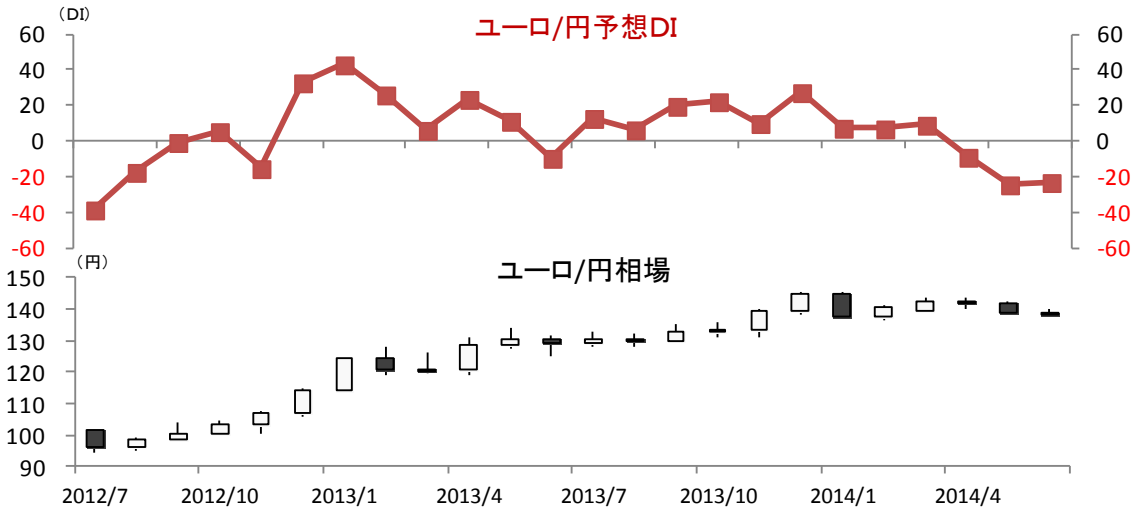
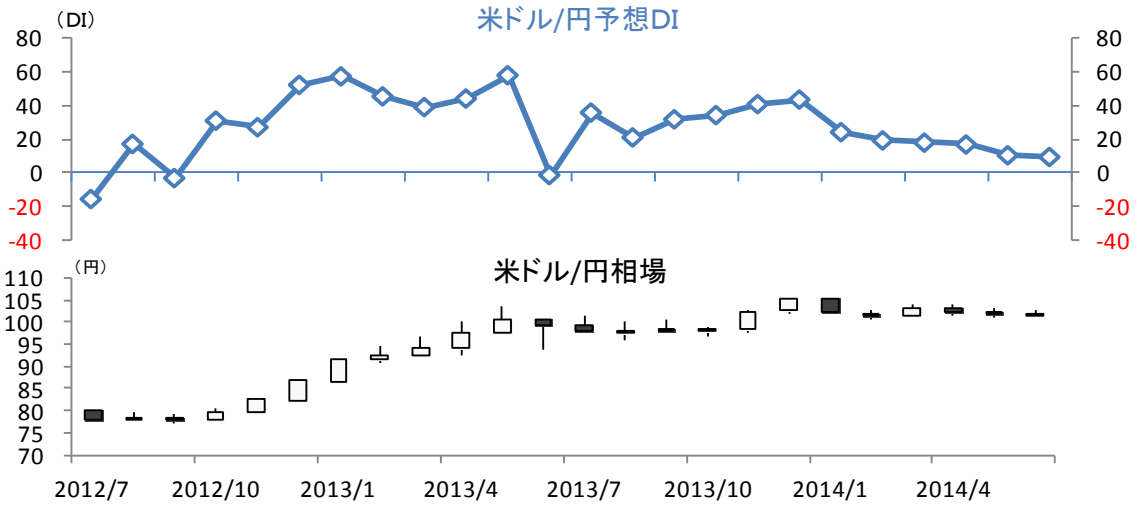
今月のもうひとつの特別質問項目として「欧州中央銀行(ECB)がマイナスの預金金利を含む利下げを行いました、中長期的なユーロ相場への影響をどのように考えますか？」と尋ねたところ、「ユーロ安」が49.9%、「中立(影響なし)」が23.6%、「ユーロ高」が9.1%と、「ユーロ安」という回答が圧倒的に多い、という結果になった。金融緩和策は基本的に通貨安政策であり、そこを素直に受け止めるFX投資家が大半を占める、と考えられる。ただし、金融緩和策を好感して株価が上がれば、円やドルに対してはユーロは上昇する傾向もある。また、欧州のファンダメンタルズは経常黒字であり、かつデフレ懸念も存在する。これら2点は通貨高要因になる。金融政策が緩和方向でも、そうしたファンダメンタルズが続く限り「緩和の影響は一時的」と見る層や「中長期的にはファンダメンタルズ面からみてユーロ高」と見る層が存在するものと考えられる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第61回目となりました。調査開始から5年が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2012年	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2
	6月	31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com